

消化器がん 1（肝胆膵）

ファシリテーター



大場 彬博 Ohba Akihiro

静岡県立静岡がんセンター 消化器内科

【ご略歴】

2010 年 浜松医科大学医学部卒業
2010 年 秦野赤十字病院 研修医
2012 年 けいゆう病院消化器内科 医員
2014 年 国立がん研究センター中央病院内科 レジデント
2017 年 国立がん研究センター中央病院肝胆膵内科 がん専門修練医
2019 年 国立がん研究センター中央病院肝胆膵内科 医員
2024 年 静岡県立静岡がんセンター消化器内科 医長



野村 基雄 Nomura Motoo

京都大学大学院医学部研究科 頭頸部腫瘍先進治療学講座

京都大学医学部附属病院 腫瘍内科

【視聴者へのメッセージ】

肝胆膵領域では、今後の診療に重要と考えられる演題をピックアップしました。

- ・切除不能肝細胞癌の一次治療の複合免疫療法に新規薬剤追加する選択肢 (atezolizumab+bevacizumab±tiragolumab[TIGIT 抗体])を検討した SKYSCRAPER-14
 - ・局所進行肝細胞癌に対し、局所療法の TACEと全身療法の atezolizumab+bevacizumab を直接対決させた ABC-HCC
 - ・膵癌の中でも最も高頻度に見られる KRAS G12D 変異を標的とした新規薬剤の臨床試験
- これらの演題について、豪華キャストによる live discussion を予定しております。ぜひ多くの先生方にご視聴いただき、ご質問いただければと存じます。

【ご略歴】

2005 年 3 月 関西医科大学卒業
2005 年 4 月 関西医科大学 研修医
2007 年 4 月 関西医科大学大学院放射線科（2011 年 3 月まで）
2009 年 4 月 愛知県がんセンター中央病院放射線治療科 レジデント
2011 年 4 月 関西医科大学放射線治療科 助教
2012 年 4 月 済生会野江病院放射線治療科 医員
2013 年 4 月 愛知県がんセンター中央病院薬物療法部 シニアレジデント
2015 年 4 月 京都大学医学部附属病院腫瘍内科 医員
2019 年 4 月 京都大学医学部附属病院腫瘍内科 院内助教
2020 年 4 月 京都大学医学部附属病院腫瘍内科 特定助教
2024 年 2 月 京都大学大学院医学部研究科 頭頸部腫瘍先進治療学講座 特定講師

消化器がん 1（肝胆膵）

プレゼンター



今岡 大 Imaoka Hiroshi

国立がん研究センター東病院 肝胆膵内科

【視聴者へのメッセージ】

2025 年の ESMO は、肝胆膵領域では KRAS 阻害薬をはじめとして、数年後には私たちの診療を大きく変えるであろう発表が多く、個人的には大変見逃せないものとなりました。そこで今回は、肝細胞癌のトピックスのほかに、早期相ではありますが、膵癌を対象とした KRAS 阻害薬の試験結果を 3 題取り上げ、今後の方向性などを掘り下げたいと考えています。どうぞご期待ください。

【ご略歴】

2000 年 神戸大学医学部卒業
2003 年 愛知県がんセンター 消化器内科 レジデント
2010 年 島根県立中央病院 消化器内科 医長
2011 年 愛知県がんセンター中央病院 消化器内科 医長
2016 年 国立がん研究センター東病院 肝胆膵内科 医員
2019 年 国立がん研究センター東病院 肝胆膵内科 医長

ディスカッサント



上野 誠 Ueno Makoto

神奈川県立がんセンター 消化器内科

【視聴者へのメッセージ】

ESMO 2025 では、肝細胞癌で注目されていた免疫チェックポイント阻害薬関連の第Ⅲ相試験の結果が報告されました。膵癌においては、KRAS 阻害薬の関連演題が複数発表されました。進行肝細胞癌では、標準治療の解釈、今後の開発の方向性について、膵癌では、KRAS 阻害薬の可能性、重要性を議論出来ればと思います。

【ご略歴】

1998 年 3 月 横浜市立大学卒業
1998 年 4 月 横浜市立大学 研修医
2000 年 4 月 藤沢市民病院
2003 年 4 月 神奈川県立がんセンター消化器内科
2020 年 4 月 神奈川県立がんセンター消化器内科部長
現在に至る

消化器がん 2（消化管）

ファシリテーター



林 義人 Hayashi Yoshito

大阪大学大学院 医学系研究科 消化器内科学

【視聴者へのメッセージ】

ESMO Congress 2025 に採択された消化管領域の演題の中から、注目すべき 3 演題を「Best of ESMO Japan 2025」に選出いたしました。今年は、対面でのディスカッション形式にて開催いたしますので、より臨場感が伝わると思います。プレゼンターには安藤先生、ディスカッサントには稲垣先生をお迎えし、各試験の背景を含めて注目の結果を解説し、日本の日常診療への影響について議論を深めてまいります。ぜひ多くの皆さまにご参加いただき、最新の ESMO Congress のトピックスを共有していただければ幸いです。

【ご略歴】

2002 年 大阪大学医学部医学科卒業
2002 年 大阪大学医学部附属病院 研修医
2003 年 大阪厚生年金病院内科 医員
2007 年 大阪大学医学部附属病院消化器内科 医員
2012 年 大阪大学医学部附属病院卒後教育開発センター 医員
2012 年 大阪大学大学院医学系研究科内科系臨床医学専攻修了
2014 年 大阪大学がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 特任助教
2015 年 大阪大学化学療法部 特任助教
2016 年 大阪大学大学院医学系研究科消化器内科学 助教
2019 年 大阪大学大学院医学系研究科消化器内科学 学内講師
2022 年 大阪大学大学院医学系研究科消化器内科学 講師

消化器がん2（消化管）

プレゼンター



安藤 孝将 Ando Takayuki

富山大学附属病院 第3内科

【視聴者へのメッセージ】

Best of ESMO にご参加頂きどうもありがとうございます。今年の消化管領域は positive な試験が少なく解釈が複雑な演題が多かったように思います。その中でも注目すべき演題を取り上げ、今後の臨床がどう変わっていくのかを議論できればと思います。会場の雰囲気などそのまま皆様と共有できればと思いますので、よろしくお願いいたします。

【ご略歴】

2001年3月 富山医科薬科大学卒業
2001年4月 富山医科薬科大学卒業
2007年4月 国立がんセンター研究所 リサーチレジデント
2010年3月 富山大学医学薬学教育部卒業
2010年4月 富山大学附属病院 診療助手
2012年4月 富山大学 内科学第3講座助教
2017年6月 富山大学附属病院 第3内科講師
現在に至る

ディスカッサント



稲垣 千晶 Inagaki Chiaki

近畿大学医学部内科学教室腫瘍内科部門 講師

【視聴者へのメッセージ】

2025年のBest of ESMO にご参加ありがとうございます。本年はBest of ESMO 消化器領域で初のディスカッサント制度が導入され、私が担当いたします。本年のESMOは消化器領域での大きなサプライズは少ない一方、臨床の意思決定を動かす実践的データが多数示されました。本セッションでは、限られた時間ではありますが、皆さまとともに、得られたエビデンスを患者さんの利益へ確実につなげるために“何を変えるのか”を端的に総括し、検討できれば幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

【ご略歴】

2010年3月 千葉大学 医学部医学系研究科卒業
2010年4月 千葉大学医学部附属病院 初期研修医
2011年4月 千葉市立青葉病院 初期研修医
2012年4月 千葉県がんセンター 後期研修医
2016年4月 国立がんセンター中央病院 短期レジデント
2017年4月 大阪大学大学院先進癌薬物療法開発寄附講座 特任研究員
2021年4月 近畿大学医学部内科学教室腫瘍内科部門 助教
2024年4月 近畿大学医学部内科学教室腫瘍内科部門 講師
現在に至る

乳がん

ファシリテーター



尾崎 由記範 Ozaki Yukinori

がん研有明病院 乳腺内科, 先端医療開発科

【視聴者へのメッセージ】

ESMO2025 ではこれまでにないほど重要演題が多かったです。今回は、以下のテーマで乳腺専門でない先生方にも聞いていただけるように、わかりやすく楽しくディスカッションします！

- ・ハイリスク早期 HER2 陽性乳癌の周術期で T-DXd をどのように臨床応用するか？
- ・PD-L1 陰性転移再発 TNBC の 1 次治療で SG と Dato-DXd をどう使うか？
- ・HR 陽性 HER2 陰性 MBC の適切な 2 次内分泌療法は？

皆様、ぜひご参加ください！

【ご略歴】

2008 年 3 月 慶應義塾大学医学部卒業

2008 年 4 月-2010 年 3 月 東京歯科大学市川総合病院 初期研修

2010 年 4 月-2014 年 3 月 亀田総合病院 腫瘍内科 後期研修医、医員

2014 年 4 月-2020 年 3 月 虎の門病院 臨床腫瘍科 医員

2017 年 7 月-現在 国立がん研究センター研究所 免疫創薬部門在籍

2020 年 4 月-2023 年 3 月 がん研究会有明病院 乳腺内科 副医長, 先端医療開発科併任

2023 年 4 月-現職 がん研有明病院 乳腺内科 医長, 先端医療開発科併任



松本 光史 Matsumoto Koji

兵庫県立がんセンター 腫瘍内科・遺伝診療科・研究部・外来化学療法センター

【視聴者へのメッセージ】

今年の ESMO 乳腺領域は大豊作でした！HER2 陽性では DESTINY Breast 05/09/11 を、HER2 陰性では evERA/ASCENT03/TROPION Breast02 と、いずれも極めて重要な演題が発表、議論されます。

婦人科領域では、ICON-8B, DUO-O, KEYNOTE-B96 といずれも考えさせられるところの多い演題が発表、議論されます。発表者もディスカッサントも新進気鋭の豪華な顔ぶれです。是非皆様ご参加くださいますようお願いいたします。

【ご略歴】

1999 年 京都府立医科大学医学部医学科卒業

2001 年 国立がんセンター中央病院内科レジデント

2004 年 同病院 乳腺・腫瘍内科チーフレジデント

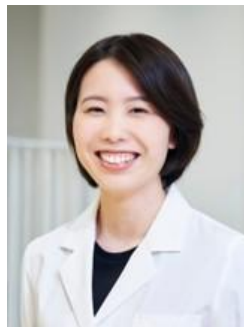
2006 年 兵庫県立がんセンター腫瘍内科 科長・外来化学療法センター 副センター長

2024 年 腫瘍内科 部長・研究部 部長・遺伝診療科 科長・外来化学療法センター センター長

現在に至る

乳がん 1

プレゼンター



齋藤 亜由美 Saito Ayumi

国立がんセンター中央病院 腫瘍内科

【視聴者へのメッセージ】

乳癌領域の薬物療法は日進月歩で、今回の ESMO でも新薬や新しい治療戦略など注目すべき多くのエビデンスが報告されました。ホルモン受容体陽性 HER2 陰性乳癌や TNBC における新たな治療選択肢など私たちのプラクティスを変える結果が発表されています。これらのエビデンスをどう解釈し、実際の臨床にどう活かしていくか皆様と考える良い機会にして参りたいと思います。よろしくお願いします。

【ご略歴】

高知大学 医学部 2011 年卒

2013 年 4 月～2015 年 3 月：麻生飯塚病院 内科 総合診療科・内視鏡コース

2015 年 4 月～2018 年 3 月：亀田総合病院 腫瘍内科 後期研修医

2018 年 4 月～2018 年 9 月：亀田総合病院 腫瘍内科 医員

2018 年 10 月～2020 年 9 月：亀田総合病院 腫瘍内科 医長

2020 年 10 月～2021 年 3 月：国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科 短期レジデント

2021 年 4 月～2021 年 9 月 国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科 がん専門修練医

2021 年 10 月 国立がん研究センター中央病院 腫瘍内科 医員

現在に至る

乳がん2

プレゼンター



酒井 瞳 Sakai Hitomi

昭和医科大学先端がん治療研究所

【視聴者へのメッセージ】

CDK4/6 阻害薬既治療の HR 陽性転移・再発乳がんにおける経口 SERD の giredestrant と everolimus 併用療法の第Ⅲ相試験（evERA）の結果が発表されました。CDK4/6 阻害薬治療後の新たな併用療法が承認されるのか注目されます。

また、PD-L1 陰性転移・再発トリプルネガティブ乳がん 1 次治療を対象とした 2 つの anti-TROP2 ADC、sacituzumab govitecan と datopotamab deruxtecan の第Ⅲ相試験（ASCENT-03、TROPION-Breast02）が同じセッションで報告され、比較検討されました。

新しい治療選択肢を患者さんに届けられること、そして皆さんと議論できることを嬉しく思います。

【ご略歴】

2009 年 3 月 横浜市立大学卒業

2009 年 4 月 亀田総合病院 初期研究

2011 年 4 月 亀田総合病院腫瘍内科 後期研修

2012 年 4 月 日本医科大学武蔵小杉病院腫瘍内科 助教

2016 年 4 月 近畿大学医学部内科学腫瘍内科 助教

2020 年 3 月 近畿大学大学院医学研究科 腫瘍病態制御学修了

2021 年 4 月 昭和医科大学先端がん治療研究所 講師

2021 年 11 月 昭和医科大学先端がん治療研究臨床センター 講師

2024 年 6 月 昭和医科大学先端がん治療研究所 准教授（現職）

乳がん

ディスカッサント



佐治 重衡 Saji Shigehira

福島県立医科大学 医学部 腫瘍内科学講座

【視聴者へのメッセージ】

2021 年より毎年好評をいただいております、今年で 5 回目の開催となりました。

今回も ESMO2025 で発表された演題の中から厳選した 30 演題について、各領域のエキスパートによる解説動画を 11 月 14 日（金）より約 4 か月間配信いたします。初めての企画として、各領域毎のディスカッションのライブ配信を 11 月 22 日（土）に行います。ぜひリアルタイムでご参加ください。もちろんこの内容もオンデマンド配信されます。がん薬物療法専門医資格更新のための単位（10 単位）も取得できます！ぜひ、ご参加をお待ち申し上げます。

【ご略歴】

1992 年	岐阜大学医学部卒業
1992 年	東京都立駒込病院外科 研修医、外科専門臨床 研修医
1997 年	岐阜大学医学部生化学教室、第 2 外科教室 博士課程研究員
1998 年	埼玉県立がんセンター研究所 研修生
1999 年	カロリンスカ医科大学（スウェーデン） 博士研究員
2001 年	東京都立駒込病院乳腺外科 医員
2003 年	M.D.アンダーソンがんセンター（アメリカ） 集学的医療研修プログラム
2004 年	東京都立駒込病院乳腺外科・臨床試験科 医長
2009 年	埼玉医科大学国際医療センター腫瘍内科 准教授
2011 年	京都大学大学院標的治療腫瘍学講座 特定准教授
2014 年	福島県立医科大学医学部腫瘍内科学講座 主任教授

婦人科がん

ファシリテーター



松本 光史 Matsumoto Koji

兵庫県立がんセンター 腫瘍内科・遺伝診療科・研究部・外来化学療法センター

【視聴者へのメッセージ】

今年の ESMO 乳腺領域は大豊作でした！HER2 陽性では DESTINY Breast 05/09/11 を、HER2 陰性では evERA/ASCENT03/TROPION Breast02 と、いずれも極めて重要な演題が発表、議論されます。

婦人科領域では、ICON-8B, DUO-O, KEYNOTE-B96 といずれも考えさせられるところの多い演題が発表、議論されます。発表者もディスカッサントも新進気鋭の豪華な顔ぶれです。是非皆様ご参加くださいますようお願いいたします。

【ご略歴】

1999 年 京都府立医科大学医学部医学科卒業

2001 年 国立がんセンター中央病院内科レジデント

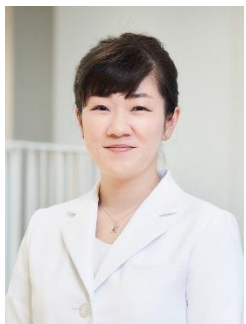
2004 年 同病院 乳腺・腫瘍内科チーフレジデント

2006 年 兵庫県立がんセンター腫瘍内科 科長・外来化学療法センター 副センター長

2024 年 腫瘍内科 部長・研究部 部長・遺伝診療科 科長・外来化学療法センター センター長

現在に至る

プレゼンター



山本 香澄 Yamamoto Kasumi

兵庫県立がんセンター 婦人科

【視聴者へのメッセージ】

婦人科腫瘍領域では、免疫チェックポイント阻害薬や抗体薬物複合体など新規治療の臨床導入が進み、治療戦略が大きく変化しています。ESMO 2025 では、これらの最新エビデンスに加え、実臨床での位置づけや治療選択の最適化に関する新たな知見が報告されました。

本セッションを通じて、日常診療に直結する最新の情報を共有し、今後の婦人科がん治療の展望を皆さまとともに考える機会となれば幸いです。

【ご略歴】

2008 年 3 月 奈良県立医科大学 医学部医学科卒業

2008 年 4 月 生長会ベルランド総合病院 初期研修

2010 年 4 月 生長会ベルランド総合病院 産婦人科 後期研修

2013 年 4 月 兵庫県立がんセンター 婦人科 フェロー

2014 年 4 月 兵庫県立がんセンター 婦人科 医長

2021 年 4 月 国立がん研究センター中央病院 腫瘍内科 医員

2023 年 4 月 兵庫県立がんセンター 婦人科 医長

現在に至る

婦人科がん

ディスカッション



西川 忠暁 Nishikawa Tadaaki

東京慈恵会医科大学 産婦人科学講座

【視聴者へのメッセージ】

婦人科がん領域では、進行子宮体癌に対する KEYNOTE-775、DUO-E、NRG-GY018、進行子宮頸癌に対する KEYNOTE-826 など、免疫チェックポイント阻害薬を用いた様々なレジメンが臨床実装されてきました。一方で、卵巣癌は cold tumor と呼ばれ、その恩恵が届けられずにいましたが、ESMO2025 ではプラチナ抵抗性卵巣癌に対するペムブロリズマブの有効性を示す KEYNOTE-B96 の結果が報告されました。今回の Best of ESMO では DUO-O の Final OS データの発表も含め、進行卵巣癌に対する免疫チェックポイント阻害薬の開発について解説し、さらには ICON8B による初回進行卵巣癌の OS 延長についても検討したいと思います。ぜひご期待ください！！

【ご略歴】

2006 年 3 月 広島大学医学部医学科 卒業
2006 年 4 月 広島市立広島市民病院 初期研修医
2008 年 4 月 広島市立広島市民病院 産婦人科 レジデント
2010 年 10 月 埼玉医科大学国際医療センター 婦人科腫瘍科 レジデント
2015 年 4 月 国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科 がん専門修練医
2017 年 4 月 埼玉医科大学国際医療センター 婦人科腫瘍科 助教
2019 年 4 月 国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科 医員
2021 年 4 月 国立がん研究センター中央病院 腫瘍内科 医員
2023 年 10 月 国立がん研究センター中央病院 腫瘍内科 医長
2024 年 4 月 東京慈恵会医科大学 産婦人科学講座 講師/診療医長
現在に至る

泌尿器がん

ファシリテーター



前嶋 愛子 Maejima Aiko

国立がん研究センター 中央病院 腫瘍内科/泌尿器・後腹膜腫瘍科

【視聴者へのメッセージ】

「ESMO は GU が熱い！！」、そう申し上げて過言ではないほど、近年の泌尿器腫瘍については、ESMO から新たな情報が発信されることが多くなりました。

本年も特に前立腺癌、尿路上皮癌で Practice Change となるような試験結果の発表が相次ぎ、Best of ESMO の採択演題を選ぶ側としては嬉しい悩みが生じました。また、腎細胞癌を含む多くの分野で biomarker に関する探索的な結果も報告されており、未来への期待は膨らむばかりです。

今回は、加藤大悟先生に注目演題をご解説いただき、杉山圭司先生に discussion に加わっていただきます。泌尿器科医と腫瘍内科医、それぞれの分野で気鋭のお二人の議論をお聞きになると、視聴する方の泌尿器腫瘍の捉え方、考え方が変わることでしょう。Best of ESMO 2025 が、皆さまが GU oncology の世界へ足を踏み入れる契機になることを願います。

【ご略歴】

2005 年 3 月 東京大学大学院総合文化研究科修士課程修了

2009 年 3 月 群馬大学医学部医学科卒業

2009 年 4 月 東京大学医学部附属病院 初期研修医

2011 年 4 月 国立がん研究センター中央病院 第 43 期 内科レジデント

2014 年 4 月 国立がん研究センター中央病院乳腺・腫瘍内科 第 25 期がん専門修練医

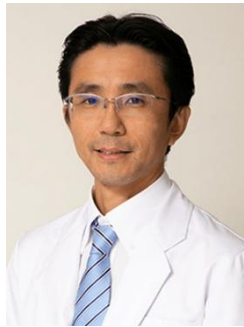
2016 年 4 月 国立がん研究センター中央病院泌尿器・後腹膜腫瘍科 医員

2018 年 3 月 東京大学大学院医学系研究科博士課程修了

2022 年 4 月 国立がん研究センター中央病院腫瘍内科 医員

泌尿器がん

プレゼンター



加藤 大悟 Kato Taigo

大阪大学医学部 泌尿器科

【視聴者へのメッセージ】

例年と同様に ESMO2025 においても、今後の泌尿器がんの治療体系に影響を及ぼす臨床試験の結果が発表されました。30 分という限られた時間ではありますが、複数の試験結果をできるだけ分かり易くご紹介致します。

【ご略歴】

2004 年 3 月 大阪大学医学部医学科卒業

2004 年 4 月-2006 年 3 月 大阪府立急性期・総合医療センター初期研修医

2006 年 4 月-2008 年 3 月 大阪府立急性期・総合医療センター泌尿器科

2008 年 4 月-2009 年 3 月 兵庫県立西宮病院泌尿器科医員

2009 年 4 月-2010 年 3 月 大阪大学医学部附属病院泌尿器科医員

2010 年 4 月-2011 年 3 月 大阪警察病院泌尿器科医員

2011 年 4 月-2014 年 9 月 大阪大学大学院医学系研究科博士課程

2014 年 10 月-2014 年 12 月 大阪大学医学部附属病院泌尿器科医員

2015 年 1 月-2017 年 6 月 米国 The University of Chicago, Hematology/Oncology, Research Fellow (中村祐輔教授)

2017 年 7 月～ 大阪大学大学院医学系研究科泌尿器科助教

2024 年 7 月～ 大阪大学大学院医学系研究科泌尿器科講師

現在に至る

泌尿器がん

ディスカッサント



杉山 圭司 Sugiyama Keiji

国立病院機構 名古屋医療センター 腫瘍内科

【視聴者へのメッセージ】

泌尿器がんに対する薬物療法は近年、目まぐるしく進歩し、著しく有効な治療法が次々と登場しています。その勢いは肺・消化器・乳がんに負けないどころか、いくつかの点でより先進的な部分も見受けられます。そんな泌尿器がん薬物療法の最新情報と臨床的な課題について議論したいと思います。

【ご略歴】

2011 年 3 月 東海大学卒業

2011 年 4 月 国立病院機構 名古屋医療センター 研修医

2013 年 4 月 東京都済生会中央病院 血液・腫瘍・感染症内科 レジデント

2014 年 4 月 国立病院機構 名古屋医療センター 血液内科・腫瘍内科 専修医

2016 年 4 月 愛知県がんセンター 薬物療法部 レジデント

2017 年 4 月～現在 国立病院機構 名古屋医療センター 腫瘍内科

2023 年 10 月～2025 年 4 月 Royal Marsden Hospital, Research fellow

その他

ファシリテーター



野村 基雄 Nomura Motoo

京都大学大学院医学部研究科 頭頸部腫瘍先進治療学講座

京都大学医学部附属病院 腫瘍内科

【視聴者へのメッセージ】

昨年に引き続き、主要 5 領域のほか領域として、より幅広い領域で解説いただきます。標準治療を変える臨床試験や、どの癌腫にも影響する免疫療法に関する演題を選出いたしました。注目演題の発表と discussion を、頭頸部領域は山崎先生、免疫・肉腫領域は仲野先生よりわかりやすく解説いただきます。また、今年は新たな試みとして、live discussion を予定しております。ぜひ多くの先生方にご視聴いただき、ご質問いただければと存じます。

【ご略歴】

2005 年 3 月 関西医科大学卒業

2005 年 4 月 関西医科大学 研修医

2007 年 4 月 関西医科大学大学院放射線科（2011 年 3 月まで）

2009 年 4 月 愛知県がんセンター中央病院放射線治療科 レジデント

2011 年 4 月 関西医科大学放射線治療科 助教

2012 年 4 月 済生会野江病院放射線治療科 医員

2013 年 4 月 愛知県がんセンター中央病院薬物療法部 シニアレジデント

2015 年 4 月 京都大学医学部附属病院腫瘍内科 医員

2019 年 4 月 京都大学医学部附属病院腫瘍内科 院内助教

2020 年 4 月 京都大学医学部附属病院腫瘍内科 特定助教

2024 年 2 月 京都大学大学院医学部研究科 頭頸部腫瘍先進治療学講座 特定講師

その他

プレゼンター（頭頸部がん）



山崎 知子 Yamazaki Tomoko

埼玉医科大学国際医療センター頭頸部腫瘍科

【視聴者へのメッセージ】

頭頸部がん領域では薬物療法の開発が進む一方で、化学放射線療法における晩期毒性の軽減やサバイバーシップに関する研究も活発に行われています。今回、これらの領域における注目すべき演題をいくつか取り上げました。皆様と活発なディスカッションができることを心より楽しみにしております。

【ご略歴】

2002 年：岩手医科大学歯学部卒業

2006 年：岩手医科大学医学部卒業

2006 年-2009 年：岩手県立中央病院 初期研修・後期研修

2009-2013 年：国立がん研究センター東病院 レジデント・シニアレジデント

2014 -2015 年：国立がん研究センター東病院頭頸部内科/先端医療科 医員

2016 年：宮城県立がんセンター頭頸部内科科長

2021 年 10 月：埼玉医科大学国際医療センター頭頸部腫瘍科教授

現在に至る

プレゼンター（肉腫など）・ディスカッサント



仲野 兼司 Nakano Kenji

がん研有明病院 総合腫瘍科

【視聴者へのメッセージ】

「その他」と一括りにされている頭頸部癌、肉腫などの希少がんに対しても、近年、新たな治療開発の道が少しずつ開けており、今年の ESMO でも多数の重要な報告がありました。情報の更新と共に採択演題候補も目まぐるしく入れ替わり、限られた時間と枠の中でどの演題を紹介するか絞り込むのは悩ましくもスリリングでした。普段当該領域に馴染みのない先生方にも興味を持っていただける内容になることを目指します。

また、新型コロナウイルスへの mRNA ワクチンが免疫チェックポイント阻害薬の有効性を高める可能性を示唆し話題となった MD アンダーソンからの報告（LBA54）についても「その他」セッションで扱います。どうぞよろしくお願いいたします。

【ご略歴】

2006 年 3 月 京都大学医学部医学科卒業

2006 年 4 月 静岡県立総合病院 初期研修医

2008 年 4 月 癌研有明病院 化学療法科・血液腫瘍科レジデント

2012 年 4 月 がん研有明病院 化学療法部 総合腫瘍科 医員

2016 年 8 月 がん研有明病院 化学療法部 総合腫瘍科 副医長

2018 年 4 月 医薬品医療機器総合機構（PMDA）審査専門員（臨床医学担当）

2016 年 8 月 がん研有明病院 化学療法部 総合腫瘍科 副医長

現在に至る

肺がん

ファシリテーター



谷崎 潤子 Tanizaki Junko

近畿大学 医学部 内科学教室 腫瘍内科部門

【視聴者へのメッセージ】

今年も TCE や二重特異性抗体、新規 TKI の有効性など、今後の診療を変える可能性のある報告がなされました。これらの最新試験結果を速報として共有するとともに、その意義や日常診療への反映についても議論します。

【ご略歴】

2007 年 3 月 近畿大学医学部卒業

2007 年 4 月～2009 年 3 月 近畿大学医学部附属病院 臨床研修医

2009 年 4 月～2012 年 3 月 近畿大学大学院医学研究科医学腫瘍生態制御学（早期卒業）

2009 年 4 月～2012 年 7 月 近畿大学医学部附属病院腫瘍内科 助教

2012 年 8 月～2015 年 3 月 Dana-Farber Cancer Institute Post-doctoral Fellow

2015 年 4 月～2018 年 3 月 近畿大学医学部内科学腫瘍内科部門 助教

2018 年 4 月～2021 年 3 月 市立岸和田市民病院腫瘍内科 医長

2021 年 4 月～現在 近畿大学医学部内科学腫瘍内科部門 講師

肺がん 1

プレゼンター



新野 祐樹 Shinno Yuki

国立がん研究センター中央病院 呼吸器内科

【視聴者へのメッセージ】

肺癌治療は日々進歩しており、ESMO2025 でも分子標的治療、免疫チェックポイント阻害薬、ADC(抗体薬物複合体)、multimodality の治療など、数多くの演題が発表されました。その中でも、近い将来の肺癌診療を変える可能性がある、重要な演題について共有させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

【ご略歴】

2011 年 3 月 東京大学医学部卒業
2011 年 4 月 国立病院機構災害医療センター 初期研修医
2012 年 4 月 東京大学医学部附属病院 初期研修医
2013 年 4 月 公立学校共済組合関東中央病院 呼吸器内科
2015 年 4 月 東京大学医学部附属病院 呼吸器内科
2016 年 4 月 国立がん研究センター中央病院 レジデント
2019 年 4 月 国立がん研究センター中央病院 呼吸器内科医員
現在に至る

ディスカッサント



國政 啓 Kunimasa Kei

大阪国際がんセンター 呼吸器内科

【視聴者へのメッセージ】

Best of ESMO 2025、Lung Cancer 1 では谷崎潤子先生の御司会のもと、新野祐樹先生から HER2 遺伝子変異関連の演題（LBA74, LBA75）の 2 演題と EGFR-TKI 耐性後の TROP2-ADC の演題（LBA5）について発表頂きます。2 つの HER2-TKI はどこが違うのか？ HER2-ADC と HER2-TKI の違いは？ Osimertinib 耐性後の治療はどのように変わるのか？ について検討します。ご視聴のほど、宜しくお願い致します。

【ご略歴】

2006 年 大阪大学医学部医学科 卒業
2006 年 市立池田病院 初期臨床研修医
2008 年 倉敷中央病院 呼吸器内科 後期臨床研修医
2012 年 神戸大学大学院医学系研究科 医科学専攻（博士課程）
2013 年 日本学術振興団 特別研究員（DC1）
2016 年 兵庫県立淡路医療センター 呼吸器内科 医長
2017 年 大阪国際がんセンター 呼吸器内科 診療主任
2019 年 同 医長
2022 年 同 副部長
現在に至る

肺がん 2

プレゼンター



古屋 直樹 Furuya Naoki

聖マリアンナ医科大学 呼吸器内科

【視聴者へのメッセージ】

Lung Cancer 2 のセッションでは、Bi-specific Ab の 2 演題をピックアップしました。既に再発小細胞肺癌の 2nd line 標準治療となった Tarlatamab (DLL3/CD3 BiTE) の 1st line での安全性/効果をみた DELLphi-303 (Phase Ib) と、今後多癌腫で臨床導入が期待されている Ivonescimab (PD-1/VEGF bispecific Ab) の HARMONi-6 (Phase III 試験) の 2 演題です。多領域の先生方にも有益な臨床試験情報だと思いますので、皆様と Bi-specific Ab の将来展望について有益な Discussion ができるのを楽しみにしています！

【ご略歴】

2006 年 3 月 聖マリアンナ医科大学 医学部医学科 卒業

2006 年 4 月 聖マリアンナ医科大学病院 初期臨床研修

2012 年 3 月 同 大学院 博士課程修了

2012 年 4 月～ 聖マリアンナ医科大学 内科学（呼吸器・感染症内科）助教

2015 年 4 月～ 聖マリアンナ医科大学 内科学（呼吸器内科）講師

2021 年 4 月～ Ohio State University, Comprehensive Cancer Center, James Thoracic Center,
Visiting research scholar (David P Carbone & Kai He Lab)

2023 年 4 月～ 聖マリアンナ医科大学 内科学（呼吸器内科）講師

2023 年 6 月～ ASCO Stage IV NSCLC Guideline expert panel member

2024 年 2 月～ IASLC（世界肺癌学会）Global Multidisciplinary Practice Standards
Committee (GMPSC) member

現在に至る

肺がん 2

プレゼンター



大矢 由子 Oya Yuko

藤田医科大学医学部 呼吸器内科学

【視聴者へのメッセージ】

肺がん診療は、この 10 年で分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬を中心にめざましい進歩を遂げてきましたが、その有用性が明らかになる一方で、「効く患者さんと効かない患者さんがいる」「最初は効いても長く続かない」といった限界も見えつつあります。私が今回ご紹介する 2 つの試験は、こうした免疫療法の限界を乗り越えるための新しいアプローチです。

HARMONi-6 試験では、進行扁平上皮非小細胞肺癌に対して、PD-1/VEGF 二重標的抗体である ivonescimab を一次化学療法に併用することで、より深い・持続的な効果を目指しています。DeLLphi-303 試験では、長年大きなブレイクスルーが得られていない進展型小細胞肺癌を対象に、DLL3 標的 BiTE 製剤 tarlatamab を一次化学免疫療法に上乘せし、「従来の化学療法 + ICI の先」を拓こうとする試みがなされています。

本セッションでは、日本の臨床現場にどう活かせるかという観点も交えつつ、皆さまと一緒にこれら 2 試験の意義を考えていければと思います。

【ご略歴】

2004 年 4 月 名古屋市立大学医学部 入学

2010 年 3 月 同大学 卒業

2017 年 4 月 名古屋市立大学医学研究科 入学

2021 年 4 月 同大学院 卒業

2010-2012 名古屋市立東部医療センター 初期研修医

2012-2014 名古屋市立東部医療センター 呼吸器内科

2014-2018 愛知県がんセンター 呼吸器内科部 レジデント

2019- 愛知県がんセンター 呼吸器内科部 医長

2022- 藤田医科大学医学部 呼吸器内科学 講師